

第10回「あいち就職氷河期世代活躍支援プラットフォーム」結果概要

1 令和5年度の取組状況及び来年度の実施計画について

構成機関・団体		令和5年度の取組概要	実績等（12月末時点）	令和6年度
全構成機関・団体		<ul style="list-style-type: none"> ・就職氷河期世代を対象とした限定求人・歓迎求人や、就職面接会等への積極的な参加勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・特設 HP、Facebook や LINE 等の SNS を活用した事業周知等 	
愛知労働局		<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省就職氷河期世代活躍支援ポスターや愛知労働局独自のポスター等の展開 ・就職氷河期世代への正社員職業紹介 ・特定求職者雇用開発助成金、キャリアアップ助成金等各種助成金の支給 ・地域若者サポートステーション（サポステ）の取組強化 ・安定就職に向けた取組（不安定な就労状態にある方への支援）としての職業相談の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県内のスーパーマーケットにポスターを掲示 ・職業紹介件数：26,768 件 ・正社員就職件数：5,080 件 ・助成金支給実績：2,752 件 ・助成金活用による正社員化：1,709 件 ・サポステ新規登録者：477 人 ・就職件数：355 件 ・定着支援：1,411 件 ・ j o b t a g を活用した職業相談及び労働市場等の情報提供、リ・スキリングを含めた職業訓練の提案 	<p>○以下の3点を重点的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援コーディネーターによる就職氷河期世代限定求人や歓迎求人の開拓・確保を促進 ・求職者と受入先事業所とのマッチング向上を図る職場体験・実習（インターンシップ）の活用促進 ・就職後のオンライン相談や職場訪問等の定着支援をより丁寧に実施
愛知県	労働局	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアコンサルタントや臨床心理士等による個別相談を実施 ・就職氷河期世代就職支援事業の実施（求職者のニーズに合わせ2つのコースに分けて実施） ・就職氷河期世代のデジタル人材を育成する雇用型訓練の実施 ・地域若者サポートステーションを活用した心理カウンセリング相談の実施 ・地域若者サポートステーションと市町村（福祉担当、労働担当）との連携会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数：1,451 件（あいち若者職業支援センター） ・参加者数：91 人（さっそく就活：61 人、じっくり就活：30 人） ・就職決定者数：36 人（うち正社員数：21 人） ・訓練修了者数：14 人 ・訓練修了者の就職決定数：12 人 ・相談件数：287 件 ・開催回数：県内8か所で開催 	<p>【主な変更点】</p> <p>○就職氷河期世代就職支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっそく就活コースの定員を50人から70人に拡充 ・さっそく就活コースの参加者のうち、希望者に1day インターンシップを実施 ・県内7か所すべてのサポステで心理カウンセリングを実施（新規：知立、とよはし）

○市町村の労政担当者と福祉担当者、サポステ担当者が一堂に会する会議を開催し、サポステの周知と市町村との連携事例の横展開を図るとともに、意見交換を通じて、横のつながりを作る場を設けた。
○顔の見える関係ができ、今後連携しやすくなったという声を多くいただいた。

構成機関・団体		令和5年度の取組概要	実績等（12月末時点）	令和6年度
愛知県	福祉局	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付への補助 ・市町村プラットフォームとの連携 ・生活困窮者自立支援事業の充実 ・生活困窮者自立支援員の養成研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助額：40,381,000円 ・市町村プラットフォームにおける就労準備支援事業の好事例及び地域課題の収集・共有 【11月末時点実績】 ・就労準備支援事業の新規支援者数：19人 ・家計改善支援事業の相談件数：54件 ・就労準備支援事業の実施市：36市 ・家計改善支援事業の実施市：34市 ・相談支援等の合同実践研修を開催 	○現場のニーズに対応した研修の充実
		<ul style="list-style-type: none"> ○具体的なケースの支援事例を取り上げ、グループワークを実施。 ○参加者の満足度が高く、また、支援困難事例の共有ができた、相談支援員同士のつながりができたという感想もいただいた。 		
愛知県	保健医療局	<ul style="list-style-type: none"> ・各町村の相談窓口の現状や課題等を把握するため市町村支援員等によるヒアリングの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング実施：23窓口（16町村） ・相談窓口が明確化されていない3自治体を訪問 	○相談窓口が明確化されていない自治体を中心に訪問し、引き続き相談窓口の明確化や支援体制の拡充に向けた支援を実施。 ○地域において、よりひきこもりに関する理解が深まるよう研修会、講演会を引き続き実施。
		<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度から県精神保健福祉センターに配置した市町村支援員が市町村を訪問し、各市町村における相談窓口の明確化や、相談支援体制の構築に向けた技術的支援を実施。 ○令和4年度からは、実際にひきこもり相談を受けている市町村窓口を中心に2週目となる訪問を実施するとともに相談窓口が明確化されていない3自治体を訪問し、明確化に向けた助言を実施。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議等への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議：3件 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・多職種専門チーム検討会議の開催 ・市町村の支援者等を対象とした研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月20日、2月（予定）検討会議開催 ・9月26日基礎研修：104人 ・8月21日専門研修：38人 ・10月21日一般県民向け講演会：83人（家族教室41人が同時参加） 	
中部経済産業局	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業等への就職氷河期世代人材確保事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業を対象とした意識啓発セミナーの開催：オンライン2回 ・中小企業等と就職氷河期世代のマッチングイベントの開催：対面2回、オンライン1回 	「事例を挙げ当事者の気持ちや家族の悩みを具体的に示していただきよく理解できた」「希望の持てる内容だった」「受講者が多く、同じような問題を多くの家族が抱えていることを改めて知った」等の感想をいただいた。	

2 就職・定着に向けた支援事例について

(1) ハローワーク一宮の支援事例

発表者	ハローワーク一宮 木下 和幸 氏、福井 直美 氏
内容	<ul style="list-style-type: none">・就職氷河期世代の支援における課題は、企業と求職者とミスマッチである。企業側は、従業員を募集しても応募が来ない、従業員が定着しない等の課題があり、求職者は、自分のやりたいことがわからない、自分の適性に合っているか不安等の課題がある。・企業支援部門と職業相談部門で連携し、それぞれの課題を解決するため、職場実習体験説明会を実施した。・実施企業の選定に当たっては、人手不足分野であり職場実習体験の受入体制があるタクシー会社を選定した。・複数人で気軽に参加できる説明会形式で、その企業に興味を持った参加者に職場実習体験を案内することとした。・説明会は5名の求職者が参加。和気藹々とした雰囲気、2名の方が配車オペレーターとタクシー乗務員の職場実習体験に参加し、結果として採用につながった。・採用につながった参加者のうちの1名は、もともとタクシードライバーを目指していたわけではないが、職場実習体験会を通じ、企業や仕事内容を知り、タクシードライバーを目指すことを決意された。・就職してから約2か月後、事業所を訪問し採用担当者に入社後の様子を確認したところ、採用された参加者は無事ドライバーとして立ち立し、勤務を継続しているとのこと。採用担当者から職場実習体験を実施して本当によかったと感謝の言葉をいただいた。・ハローワークでは採用された求職者だけでなく、採用した企業にも訪問や相談などの職場定着支援を行っている。

(2) 一宮市の支援事例

発表者	一宮市 福祉部 福祉総務課 福祉総合相談室 小島 一浩 氏
内容	<ul style="list-style-type: none">・生活困窮者自立支援制度は、生活にお困りの方を対象に、住まいのこと、仕事のこと、暮らしのこと、お金のことを中心に相談支援を行う制度である。・本制度における、就労準備支援事業では、生活リズムが崩れているなどで、仕事に就いたことがない方や、ブランクがある方を対象として、市役所での面談や、事業所でのボランティア活動、就労体験の機会提供などを通じ、就労の準備段階を支援している。・相談者は40代前半の方で、専門学校卒業後、アルバイト等に就いたが離職し、以降、十数年間就労しておらず、人との交流も少ない状態で、就職を検討するものの自信が持てないことから、相談に至った。・相談者は、就労支援員による面談や、相談者の状態に理解のあるボランティア団体や就労体験先の事業所での体験を通じ、正社員で働きたいという意欲が生まれた。その後、就労支援員同行のもと、ハローワークの就職氷河期世代専門窓口での相談や面接練習等の支援を受け、正社員として採用された。・相談者は、現在も就労を継続しており、就労支援員が定着確認を行うなど、伴走型支援を継続している。